

プログラム詳細

※プログラム内容・時間等は予告なしに変更になる場合がございます。予めご了承ください。

時間	内容
14:00	開会
14:02-14:05	主催者挨拶 S-Booster2018 実行委員会 実行委員長代理 内閣府宇宙開発戦略推進事務局 高田 修三
14:05-14:20	各賞、ファイナリスト、審査プロセスの紹介
14:15-14:20	プレゼン準備
14:20-14:28	ビジネスプラン部門①「ヒコーキをアンテナ化！海の上でも衛星データ受信サービス」 チーム名:AO-Links 代表者:津上 哲也 地球観測衛星(特に小型衛星)は、顧客ユーザーに提供するための必要なデータ以外の観測データは、使われずに上書きして捨てられています。この捨てられているデータを旅客航空機で回収することで、データバックアップ&利活用のサービスを構築します。
14:28-14:36	ビジネスプラン部門②「美肌衛星予報」 チーム名:YOT (by POLA) 代表者:大久保 禎 衛星データとポーラ所有の1,750万件を超える肌データを融合させ、美容と健康に特化したデータプラットフォームを創出する。さらに、衛星データの中でも、肌に影響を及ぼす近赤外光に着目し、その予防とケアを、「美肌衛星予報」として BtoC、BtoB へ展開する。宇宙技術を美容・健康へ積極的に投資する顧客に繋げ、社会全体の発展に貢献する。
14:36-14:44	ビジネスプラン部門③「宇宙から見つけるポテンシャル名産地」 チーム名:天地人 代表者:繁田 亮 近年、栽培技術の発展に伴って、伝統的に栽培されている作物以外にも、より生産性の高い作物が生産可能になってきたが、その可能性は見過ごされがちである。そこで衛星から得られる地形の3Dマップや細かい粒度での降雨・日照等を複合的に分析し、その時・その土地で最適な作物を探し出し、営農戦略に反映させる。
14:44-14:52	ビジネスプラン部門④「静止測位衛星による津波早期警戒サービス」 チーム名/代表者:長尾 年恭 本グループがGPSデータ解析で発見した『津波電離圏ホール』を用いる事で、巨大地震の初期津波高を宇宙から正確に予測できる事が判明した。さらに静止測位衛星を用いる事で、近い将来発生が確実な南海トラフ巨大地震震源域が常時モニターでき、GPS衛星の移動による全電子数変動がない安定した津波予測を実現する。
14:52-15:00	ビジネスプラン部門⑤「宇宙でのQOL向上のための、肌と微生物の共生」 チーム名:Fun-G 代表者:佐々 祥子 地球上とは異なる宇宙特有の肌環境に着目し、微生物との共生を軸に宇宙で過ごす人類のQOLを向上させる事業を提案する。微生物を操る技術に着目し、一般人が宇宙で快適に過ごすために最適な肌環境へ導くことで、民間での運用が急速に進む宇宙旅行・滞在の大衆化に貢献する。
15:00-15:08	ビジネスプラン部門⑥「旅客機のレーダー衛星化によるビッグデータ事業」 チーム名:AO-Links 代表者:宮下 陽輔 旅客機に衛星用のレーダーを搭載して地球観測を実施し、それを既存の衛星データと組み合わせた解析システムを構築します。このシステムにより、衛星だけでは獲得できなかった高頻度・高解像度データを常時大量に取得し、災害救助に役立てると共に、ビッグデータ事業により従来になかった衛星データ利用法を開拓します。

15:08-15:16	<p>ビジネスプラン部門⑦「成層圏における微生物採取請負人」</p> <p>チーム名:チーム スペースドリフター 代表者:近藤 憲</p> <p>成層圏には特殊な微生物が存在するといわれています。その微生物をバルーンを使って低コストで採取しようと考えています。採取した微生物は、最新のゲノム解析などで由来や特性を分析します。</p> <p>紫外線に強い微生物などから新物質や新しいメカニズムが発見され、新素材や病気の治療に役立つ可能性があります。</p>
15:16-15:24	<p>ビジネスプラン部門⑧「ロケット海上打ち上げ」</p> <p>チーム名:森琢磨・山田龍太郎 代表者:森 琢磨</p> <p>2030年までに小型衛星打ち上げ市場は13兆円に成長するが、6兆円分は供給不足。小型ロケット開発は躍進しているが、打ち上げ施設が追い付いていない。一方で海洋掘削リグは40%が待機状態、作業料は1/2、中古市場は数億円にまで下落している。海上打ち上げ施設単体の民間運用は世界初であり、需給が不均衡にある今がチャンス。</p>
15:24-15:30	<p>未来コンセプト部門①「地球上から月面基地開発可能なテレプレゼンスロボットの実現」</p> <p>チーム名:GITAI 代表者:中ノ瀬 翔</p> <p>地球上から月面基地開発作業が可能な次世代テレプレゼンスロボットの実現。地球-月間の限定的なネットワークインフラ上で通信可能なテレプレゼンスロボットを開発し、地球上から遠隔で月面基地開発作業を行えるようにすることで、月面基地開発にかかるコストを大幅に下げ安全面の課題も解決する。</p>
15:30-15:36	<p>未来コンセプト部門②「地球内部のCTスキャン」</p> <p>チーム名/代表者:大出 大輔</p> <p>地球内部のデータには、地下資源探索や、人命に関わる事故の防止など、無限の価値があります。本提案では、宇宙から地球に降り注ぐ宇宙資源である「宇宙線」を用いて、人間をCTスキャンするのと同様に、地球をCTスキャンすることで、地球の地下構造を明らかにし、全世界的により豊かで安心安全な社会へ発展することを目指しています。</p>
15:36-15:42	<p>未来コンセプト部門③「超小型衛星群とグローバル地上局ネットワークによる地震発生予測」</p> <p>チーム名/代表者:鴨川 仁</p> <p>統計的な有意性が検証されている地震先行電離圏変動検知だけに特化した非常に安価な超小型衛星もしくは他衛星との相乗りミッションとしてセンサーを搭載し、準リアルタイム地震短期直前予測を実現する。最終的には30機程度の衛星群で全球を常時モニターし、地震多発国や保険業界等に地震予測情報提供サービスを行う。</p>
15:42-15:48	<p>未来コンセプト部門④「Aurora for ALL」</p> <p>チーム名/代表者:田中 沙季</p> <p>オーロラは予測できない、いつ見れるかわからない、発生するまで外でじっと待たなくてはならない、と思っている人が多いはず。しかしこれはオーロラ観測への思い込み、先入観なのです。</p> <p>オーロラは人工衛星で確実に予測することができ、30日周期で綺麗な光を放ちます。オーロラの発生周期を予測し、確実に見れる日に見に行ける方法を提案します。</p>
15:48-16:00	休憩

16:00-16:50	<p>スペシャルトークショー「宇宙ビジネスアイデアを具体化していくためには？」 「S-Booster 2017」受賞者による事業進捗報告、宇宙ビジネスに関するディスカッション</p> <p>出演者： 「S-Booster2017」受賞者 松本 紋子 氏 （ANA ホールディングス株式会社 デジタル・デザイン・ラボ イノベーション・リサーチャー（兼）宇宙事業化プロジェクトメンバー）（大賞、スカパーJSAT 賞受賞） 石北 直之 氏 （NHO 渋川医療センター／STONY）（ANA ホールディングス賞受賞） 青木 義男 氏 （日本大学 理工学部 精密機械工学科 教授）（大林組賞受賞） 福代 孝良 氏 （一般社団法人宇宙利用新領域開拓機構 代表理事）（審査員特別賞受賞） アクセラレーターゲスト： 尾崎 典明 氏（一般社団法人 TX アントレプレナーパートナーズ 副代表理事） モデレーター：青木 英剛氏（グローバル・ブレイン株式会社 宇宙エバンジェリスト）</p>
16:50-17:05	休憩、授与式準備
17:05-17:43	<p>審査結果発表、授与式</p> <p>①スポンサー賞（各 1 作品） ②審査員特別賞（1 作品） ③未来コンセプト賞（1 作品） ④最優秀賞（1 作品）</p>
17:43-17:45	<p>総評、閉会挨拶</p> <p>平井卓也 内閣府特命担当大臣（宇宙政策）（予定）</p>
17:45	閉会